

経営比較分析表（令和4年度決算）

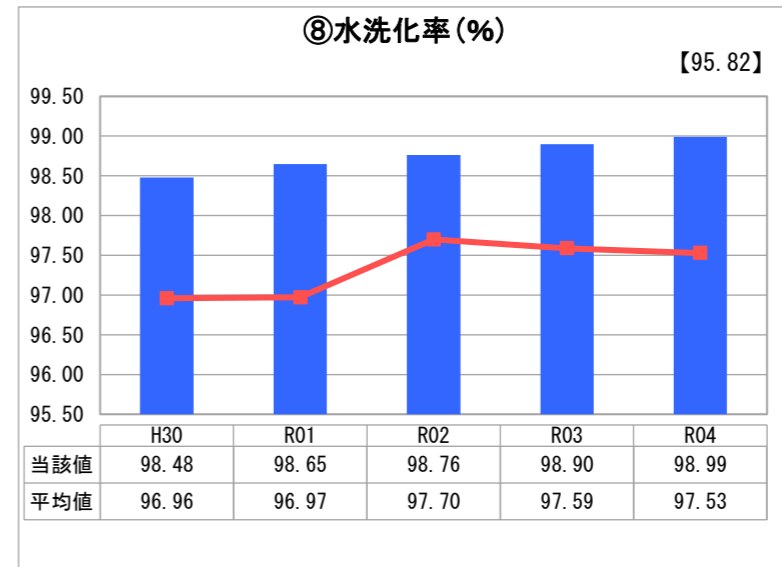
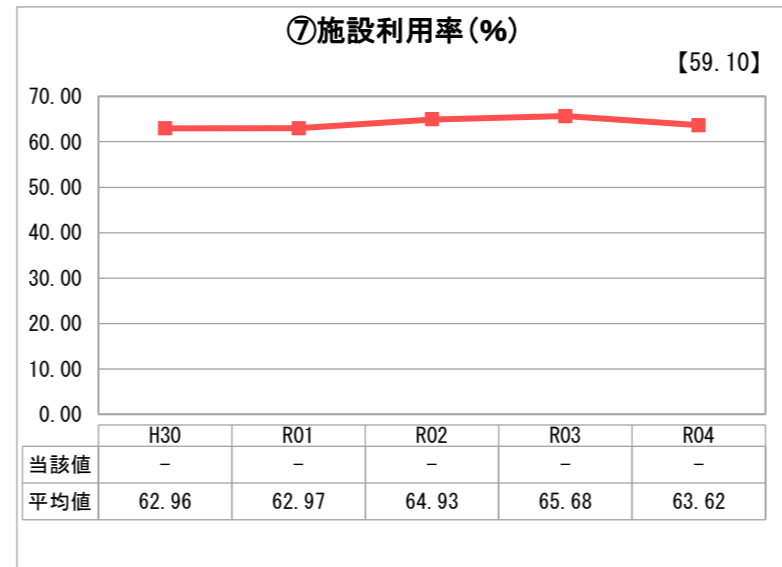
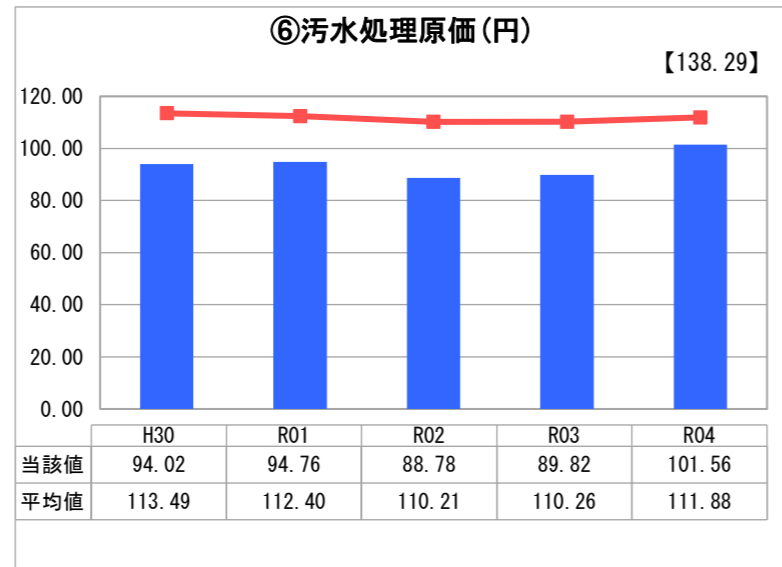
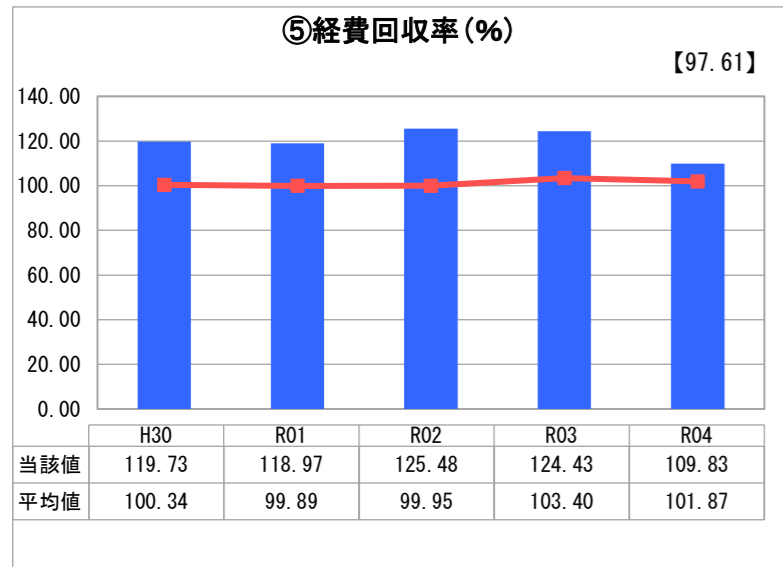
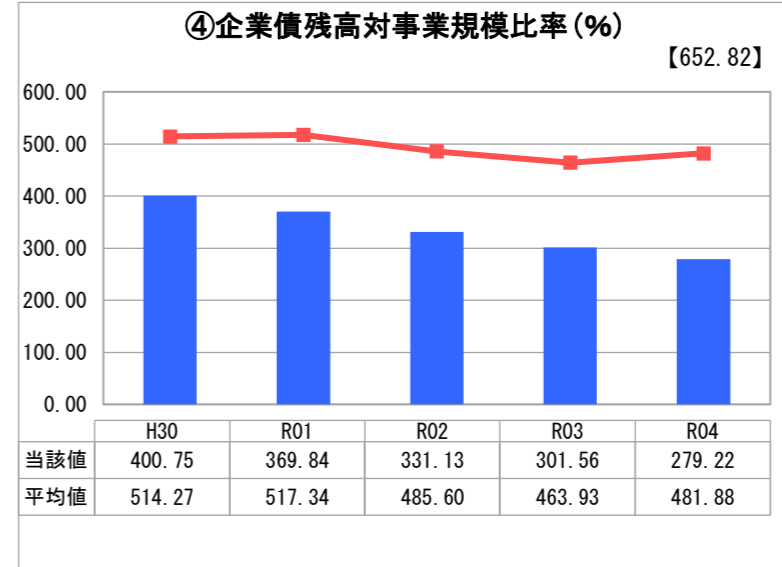
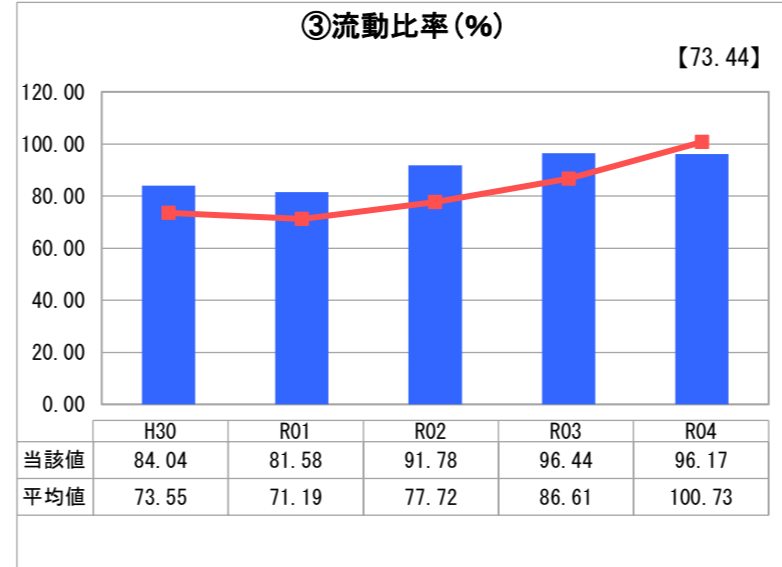
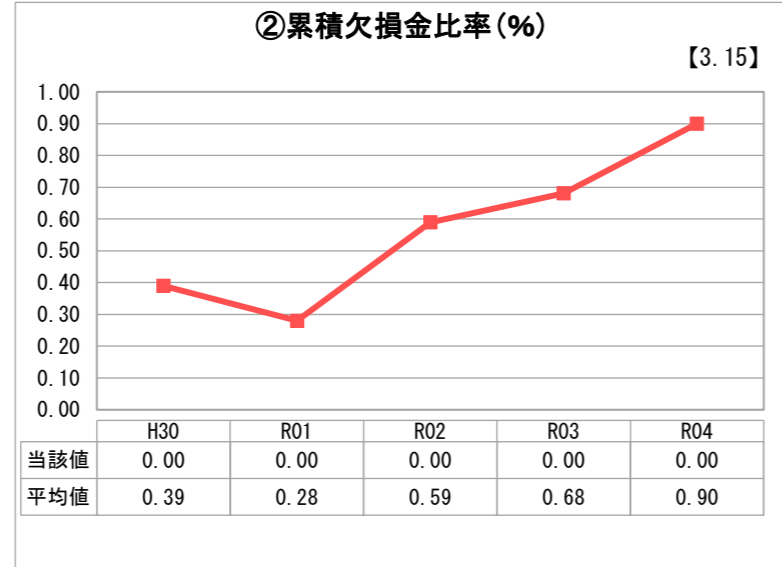
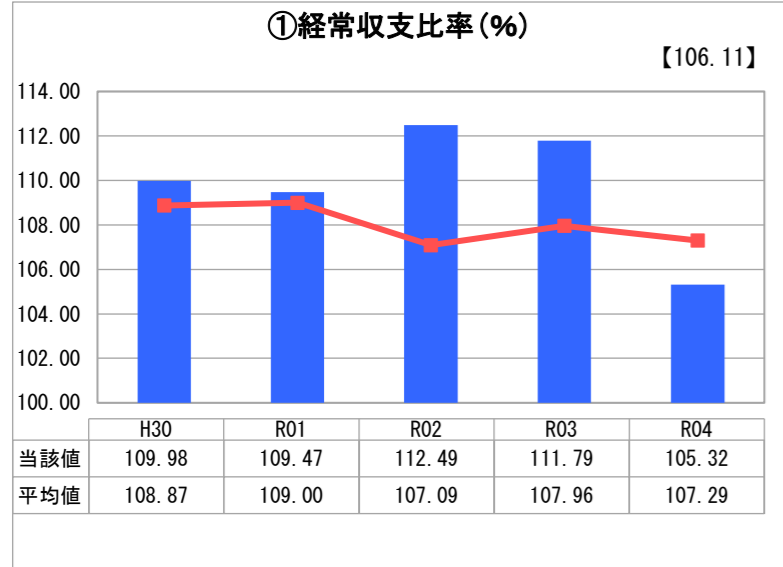
神奈川県 茅ヶ崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	61.71	95.79	86.87	1,878

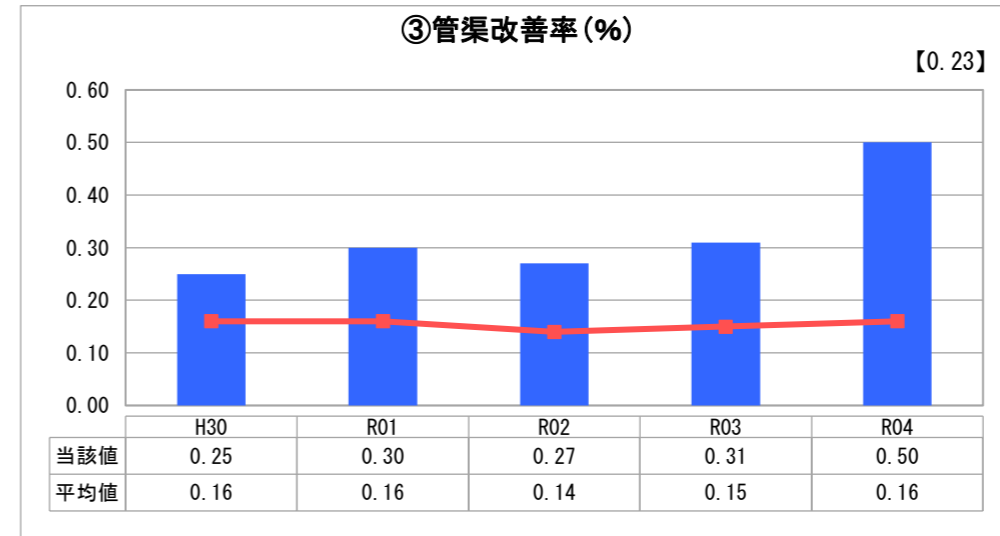
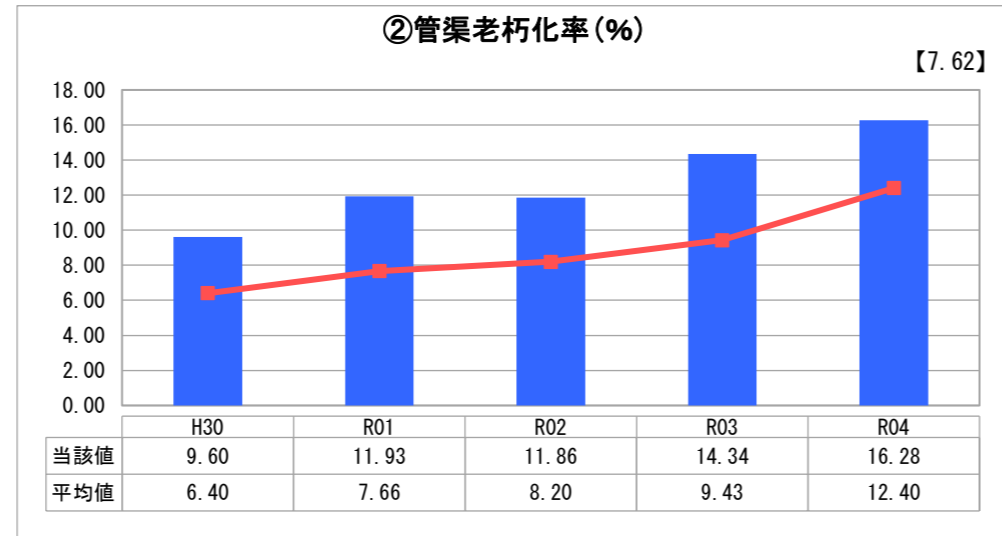
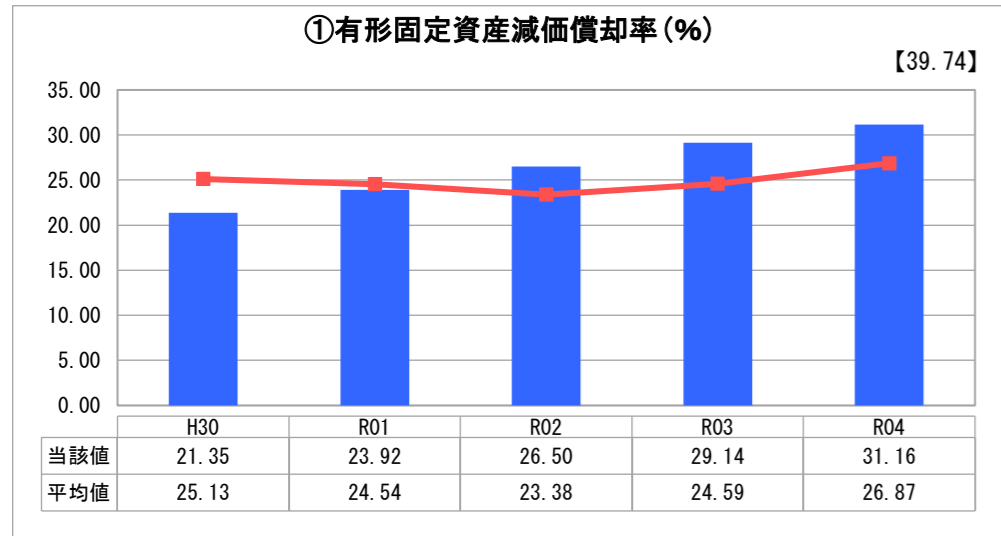
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
246,394	35.70	6,901.79
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
236,266	22.40	10,547.59

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%を上回っており、累積欠損金比率が0%であることから、健全な経営を維持できているといえます。

流動比率は100%を下回っておりますが、下水道使用料収入や現金残高が安定していることから、現状の支払能力に問題はありません。

しかしながら、将来的には人口減少に伴う下水道使用料収入の減少が予想されることから、下水道使用料の収納状況を把握する等、短期的な資金管理に注視し、適切な経営に取り組んでまいります。

経常収支比率及び流動比率は類似団体平均値を下回っておりますが、電気料金高騰に伴い、流域下水道処理場に対する令和4年度の負担金が大きく増額となったことが影響しています。

企業債残高対事業規模比率、経費回収率、汚水処理原価及び水洗化率については、類似団体平均値と比較して良好な水準で推移しています。

今後の状況によっては、料金改定等も視野に入れた経営改善を図っていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

昭和38年度に下水道整備を始め、当初に布設した管路は法定耐用年数である50年を超えています。管渠老朽化率は類似団体平均値と比較するとやや高い水準にありますが、管渠改善率が類似団体平均値を上回っていることから、着実に事業が進捗しているものと判断しています。

今後も茅ヶ崎市公共下水道施設維持管理計画に基づく施設調査・点検を通じて、適正な維持管理と効率的な施設の改築更新を進めます。

全体総括

経営の健全性や効率性については、各指標から比較的高い水準が保たれていると考えますが、布設管渠については、老朽化が進行しています。

将来のリスクを回避するため、料金改定も視野に入れながら、茅ヶ崎市公共下水道事業経営戦略に基づき、直面する課題に着実に対応し、経営基盤の強化に努めます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。